

腸内細菌の変化  
メタボ肝炎に関係

### 県立大など研究

富山県立大工学部医薬品  
工学科の長井良憲教授、大  
学院博士前期課程の葛西海  
智さんらの研究グループ  
は、メタボリック症候群に  
伴う脂肪性肝炎の発症や、  
肝臓が硬くなる「繊維化」  
の進行に、腸内細菌の変化  
が関わっていることを明ら  
かにした。

研究グループは、人間の  
脂肪性肝炎に似た症状を持  
ったマウスを使って実験し  
た。高脂肪の餌を与えて肝  
炎を発症させ、ふんから腸  
内細菌を調べると、正常マ  
ウスに比べ、免疫の維持に  
関わる細菌が減少している  
など、腸内細菌の数や種類

が変化していた。今後研究  
を進め、肝炎に関わる細菌  
を特定し、予防や治療法開  
発につなげる。

研究は県立大の古澤之裕  
准教授や河西文武講師、県  
薬事総合研究開発センタ  
ー、徳島大などと合同で行  
い、成果は17日、スイス科  
学誌「インターナショナル  
・ジャーナル・オブ・モレ  
キュラー・サイエンス」に  
オンライン掲載された。

富山新聞:朝刊

掲載日:2023/02/22 面名:TPX ページ:021